

尾となり、花盤の剛毛は分岐するのと比較するに、これはこの兩群の地理的分布上からも兩屬は區別する方がよい様に思われる。

我が國には本屬に *Atractylodes japonica* Koidzumi mss. = *Atractylode lyrata* var. *ternata* KOIDZUMI, Fl. Symbolae Orient.-Asiat. (1930) p. 5. オケラと *Atractylodes koreana* (NAKAI) KITAMURA = *Atractylis koreana* NAKAI in Tokyo Bot. Mag. XLII (1928) p. 478. ショサウジュツとが一般で後者は従来朝鮮にのみ知られてゐたが満洲大連 (30 jul. 1932 M. KOBAYASHI) 遼陽 (19 aug. 1928 M. NODA) に産する事が知られた。

Atractylodes lyrata SIEB. et ZUCC. は小泉先生のLeiden よりもらつて歸られ標品を拜見したが、これは草本圖説牧野版第十五卷五十二圖版 ホソバナヲケラであつて故松田定久氏が東大植物園より標品にされたものあるきり我が國の野生標品を見たことがない、草本圖説第一版には木曾に産すとあるさうであるが、標品を見ぬ限り支那から傳來したものか又は支那品と本邦のオケラとより作られたものか不明であるが兎に角オケラとは別種である。

抄 録

ハルリス氏：東部グリーンランドの三疊侏羅紀植物化石，第四篇。 (T. M. HARRIS:—The fossil Flora of Scoresby Sound East Greenland, part IV 1935, p. p. 1-176, t. t. 1-29.)

本篇には銀杏類、松柏類、石松類を記せり、松柏類には 13ヶの新屬を設立し、他は各一新屬を設立せり、其内最も吾人の注意をひくは石松類の *Grammaephloios* と云ふ新屬である、本屬は莖枝の厚さ 3.5 cm にもなる大石松であつて *Grammaephloios ichhya* HARRIS と稱す。大石松は元來古生代以外には發見されてゐない事であるのに今侏羅の下部 Liass に大石松の發見されし事は、上部 Rhaetic の大石松子囊穗なる *Lycostrobis* の存在と思ひ合されて、中生代の初め頃にも少許の大石松が存在した事が考へらるゝ。(G. KOIDZUMI.)

STAPP 氏：—石南科の新屬 *Botryostege* (O. STAPP:—*Botryostege*, A New Genus of Ericaceae, in Kew Bull. 191-195, with Pl., Aug. 1934)

先年物故せられた O. STAPP 氏の遺稿で日本特産のミヤマホツツジに對する新しい見解である、氏は此の植物は北米産の *Elliottia* 及び本邦産の *Tripetaleia* とは五全裂する萼片と、苞とが葉狀に成つて居る點で區別さるべきものであるとの意見で